

実生活の延長にある“もう1つの活動の場” 安心をベースに、地域交流や匿名相談の場にも

市民コミュニティは“生活の延長”

ネットコミュニティの本質は、同じ趣味や考え方を持つ人と出会いたいという仲間探しにある。その中でも市民コミュニティは、単なるオンライン上の意見交換の場というよりも、自分が所属できる組織やグループを探したい、あるいはリアル社会でも実際にアクションを起こしたいといった目的を持つ場合が多い。つまり、通常の生活の延長上にあるもう1つの活動の場として捉えられているわけである。ネット上での交流は匿名で行われるのが多いのに対し、市民コミュニティでは実名か、ハンドルネームを使っても個人プロフィールを公開している場合が多い。リアルとバーチャル（インターネット上）の境界があまりない感覚で参加していることがうかがえる。

安心と新鮮な出会いが魅力

同じ学校の卒業生同士がネット上で交流する同窓会サイトの「ゆびとま」^{Jump01}や、地縁をキーワードにした「ご近所さんを探せ」^{Jump02}などは幅広い人気を集めている。人気の理由の1つは、オンラインという相手の顔が見えない世界で見知らぬ人と会うには抵抗感があるが、過去に面識がある、同じ地域に住んでいる相手なら大丈夫という安心感があるためだろう。一方で、現実の世界ではなかなか出会いにくい人同士がネット上では出会えるという偶然性が、多くの人々を引き付け、世代や性別を越えた交流を生み出すきっかけにもなっている。

趣味のコミュニティの場合も、旅や音楽、車のようなキーワードは、一緒に旅をしたり、音楽CDを製作したり、ドライブをしたりするなど、オフラインでの交流がしやすいものほど継続する傾向にある。

地域が育てる市民コミュニティ

都心に比べてインフラの整備が遅く、通信料金が安い地方においては、情報格差（デジタルデバイド）に対する危機意識もあり、早くから市民コミュニティの育成に力を入れているところも少なくない。アクセス環境を提供してインターネットを体験してもらい、ネットリテラシーを向上させることが狙いだ。

大分県の「コアラ」^{Jump03}は、そうした地域コミュニティのパイオニア的存在として知られている。85年5月に地域向けパソコン通信サービスとしてスタートし、インターネットにもいち早く対応して地域住民にホームページスペースの提供などを行ってきた。村単位でインターネットに力を入れていることで知られているのが、富山県の山田村である^{Jump04}。過疎が進む中で、村を離れた人たちも含めたオンラインコミュニティを作っていくという試みは、市民コミュニティの1つの形として定着していこう。

これからますます増える市民コミュニティを国が支援しようとする動きも始まっている。任意団体の「E ジャパン協議会」^{Jump05}はコミュニティ向けサーバーアプリケーションをオープンソースで提供するという活動を進めており、すでにデモサイトも公開されている。

匿名性を大切に相談コミュニティ

大手ISPのSo-netが運営する「Family Clinic～妊娠・出産・育児の談話室」^{Jump06}は、妊娠や育児の悩み、とくに不妊の悩みを語り合い、相談しあえる掲示板として人気が高い。参加するにはメールアドレスとハンドルネームを登録する必要があるが、掲示板にはアドレスを記載せずハンドル名表示のみで発言できる。参加者は匿名性を保ったまま発言

でき、運営サイドは匿名ゆえの無責任投稿が横行しないように管理できる仕組みだ。

不妊の悩みなど身近な人間には相談しにくい微妙な問題も、同じ悩みをもつ人たちが集まる場なら、そしてそこで匿名性が守られるなら、安心して話したり相談したりできる。そうした参加者の心情を汲んだ運営が行われているといえる。

病気や相談ごとなどをテーマとする市民コミュニティでは、このように匿名あるいはハンドルネーム登録が前提となっているケースも少なくない。

市民コミュニティ運営のポイント

市民コミュニティが円滑に運営されるためには、ローカルルールの設定や運営方法の策定がポイントとなる。何らかのトラブルが生じた場合も、一定のルールの下に参加者に対応できる体制が整えられていれば、紛糾の拡大を避けることができる。もちろんルールはあるだけではダメで、うまく運用されなくてはならない。運営側にある程度の経験値、ネットワークリテラシーの高さが求められるわけである。評判がよく活気がある市民コミュニティの運営者は、パソコン通信時代に会議室や掲示板を運営した経験をもつ人が少なくない。コミュニティ運営の経験は、さらにいえばコミュニティの文化は、パソコン通信時代に基礎が築かれ、そこに参加していた人たちに受け継がれているといえそうだ。

(野々下裕子 ネット・ジャーナリスト)

^{Jump01} www.yubitoma.or.jp

^{Jump02} www.gokinjo.net

^{Jump03} www.coara.or.jp

^{Jump04} www.vill.yamada.toyama.jp

^{Jump05} www.ejf.gr.jp/ecn/

^{Jump06} www.so-net.ne.jp/vivre/maamtown/board/



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp